



さまざまな人種・民族の子どもたちが一つの教室で学ぶアメリカの小学校 (2012年・テキサス大学附属小学校/オースティン)

特集 グローバル社会に生きる

- ・グローバル化の時代と日本 五百旗頭 真 2
- ・グローバル化する社会の特色と教材化の視点
～『フラット化する世界』をてがかりに～ 二川 正浩 6
- ・異質な他者との社会形成をめざす歴史教育 田口 紘子 8
- **ピックアップ社会**
「中学校での学習に繋げる」第6学年の社会科学習 青木 靖 10
- **小中連携の現状と課題**
大分市の小中一貫教育
小中一貫教育モデル校として「賀来」・「竹中」
小中学校の取組みを振り返って 安部 俊児 14

- **みんなくワールドシネマ** [第10回]
もうひとりの息子 菅瀬 晶子 16
- **ようこそ！ 歴史史料の世界へ** [第11回]
富岡製糸場から発した工女の手紙 今井 幹夫 18
- **生活の国際手帳** [第3回]
新興国の台頭と国際秩序の変化 (2) 栗栖 薫子 20
- **ICT 教育最前線 2015**
社会科におけるデジタル教科書の利点と期待 井田 仁康 22

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をにう子どもたちへ

日本文教出版



グローバル化の時代と日本

熊本県立大学理事長
神戸大学名誉教授 五百旗頭 真



戦後70年を迎える今年である。

70年前の日本は、310万人の同朋が戦に倒れ、^{いくさ}京都以外の主要都市がほとんど焼け野原となった敗戦国であった。生き残った国民も、家を焼かれ、食べ物がなく、お母さんは今日一日、家族をどう飢えさせずにいくか悩んだ。栄養失調のため、結核に倒れるお父さん、インフルエンザで死ぬ子どもが相次いだ。

目的のはっきりしない戦争を次々に仕掛けては、ついに世界を敵とする勝てない戦争にのめり込んだ愚行の報いであった。多くの国民は戦いを重ねた過去を悔い、戦後日本の言論界には反戦平和主義がひろがった。平和憲法案が提示されると、8割もの国民が共感し（毎日新聞世論調査）、「非武装中立」を掲げた日本社会党は、戦後かなりの期間、3分の1を下らない議席を国会で維持した。

とはいえ、平和主義をもって生計を立てていくわけではない。家族が食べていくには何としても経済復興が必要であった。多くの国民は戦争に二度とかかわりたくはなかったが、平和な生活のための安全は欲しかった。この解のなきような要請の中で、吉田茂首相は対米基軸という答えを打ち出した。対米基軸は、第一に市場経済下の復興、第二に自由と民主主義の社会、第三に米国による安全、を戦後日本が選ぶことを意味した。冷戦下の世界で西側陣営に属し、日米安全保障条約を結ぶことには、一部に強い反対があった。さりとて

自立するための本格的再軍備（改憲再軍備論）を日本が行うことについては、もっと強い抵抗感が国の内外にあった。国際連合による平和、中立主義による平和への希望も少なくなかったが、双方とも日本の安全を保障するほどに強力ではなかった。

朝鮮戦争という隣国における「冷戦の熱戦化」の中で日本は独立を回復することになった。米国は日本に速やかな再軍備を求めたが、吉田首相は日米安保の下で限定された軍備をゆっくり再建したいと主張し、了承された。明治国家が「富国強兵」を目指したのに対し、吉田首相は「強兵なき富国」というかたちを戦後日本に打ち出したのである。

吉田路線は、おそらく吉田自身が望んだ以上に戦後日本を染め上げることになった、社会のほぼすべてのリソース（物的・人的資源）が経済活動に投入された。戦後日本が高度経済成長をとげた1960年代には、中学や高校を卒業した若者が、企業等への集団就職のため汽車で都会へ向かうようになった。大学進学のために都会へ出た高卒者も、卒業後はほとんどが大都会で職に就いた。戦後すぐには50%もあった農業などの第一次産業従事者が30年のうちに10%以下となり、第二次（工業）、第三次（サービス業）産業が膨脹した。^{ほうちよう}戦後日本は通商産業国家として、平和的に再生を遂げることに成功したのである。

振り返れば、国難のどん底から再生バネを効かせて浮上し躍進を遂げる歴史を日本は何度も繰り返してきた。

大和王朝は斉明天皇と中大兄皇子の下で軍備を整え、663年には、2万7千人もの大軍を朝鮮半島に繰り出し、白村江で惨敗した。友好関係にあった百済が唐・新羅の連合軍によって滅ぼされたのを再興するという大義はそれなりにあったが、戦う相手や戦地の気象などについて無知のまま、そして作戦と指揮系統を欠いたまま、大軍であることに自己陶醉して突入し、二日で全滅した。愚行の報いであった。

敗れて大和王朝はめざめた。唐・新羅の連合軍が襲来すると覚悟し、日本史上はじめての国防体制を築いた。対馬から瀬戸内海を経て畿内の生駒山まで一連の城塞を築き、のろしの通信システムでつなぎ、東北地方出身者を含む防人を西国の前線に配した。とりわけ北九州の拠点・大宰府の防衛には意を用い、百済の軍事技術を用いて水城・山城をめぐらすとともに、南方62kmに鞠智城きくちをも併設し、縦深性のある支援拠点とした。

国防体制以上に重要なことは、白村江敗戦後、大和王朝が唐文明の学習に力を注いだことである。唐文明はローマ文明衰退後の世界最強文明であった。最終的にはその水準をこなすことなしに日本の安全はない。半世紀にわたる学習を通して、710年に律令国家の首都・平城京が大和の地に築かれた。日本史は逆境の中での再生バネにより躍進し、

はじめて世界の文明水準を手にしたのである。

これ以後、長い間日本が世界の文明水準から大きく遅れをとることはなかった。

しかし、かなりの遅れが、江戸時代に日本が鎖国している間に、イギリスなどで産業革命が進んだことによって生じた。1853年のペリーの黒船来航によって国禁を破られた後、日本は白村江の戦いの後と同じ型の対応を行った。尊王攘夷の民族的プライドを表現する運動が日本の自立を担保しつつ、実は幕府も明治政府も西洋文明の学習に力を入れた。およそ50年間の近代化努力の後、日本は西洋の軍事大国・ロシアとの戦争に勝利することができた。日本は非西洋社会のうちで、西洋列強に植民地化されることなく、並び立つことのできた最初の国となった。

悲嘆のきわみからの再生という繰り返されてきた日本の歴史が、1945年の第二次世界大戦敗戦の後にも繰り返されたのである。その流れは、60年代の高度経済成長で明らかとなったが、70年代には石油危機など相次ぐ国際危機に見舞われ、戦後日本の再生もこれまでかと思われた。だが日本国民はここでも再生バネを効かせ、燃費効率の良いエンジンの開発など技術革新により、80年代の経済繁栄を築くことに成功した。家電や自動車など品質のよい日本商品が世界中で売れに売れた。冷戦終結を迎える1989年には、日本は世界一のモノづくり国家であり、世界GDPの15%を占める世界第2位の経済超大国であった（第1位は米国で、

世界全体の25%、他の国々は一けた)。

驚くべき再生力を発揮した戦後日本だったが、経済的余力のあった80年代に長期的な国家戦略をもって将来に備える大局観を持てなかったのは残念であった。国際的な役割を果たせる人材づくりや、政府機関だけでなく民間組織が公的な役割を担えるよう財団やシンクタンクを育成・強化する制度をつくっていれば、その後の日本は支えられたであろう。そうした未来への投資が不十分のまま、日本社会はバブルがはじけると、経済低迷を10年、20年と長引かせ、頂点からの転落もまた速かった。

小泉純一郎首相が21世紀はじめに5年の政権を終えた後、日本政治は衆参両院のねじれ状況に苦しみ、1年程度しか続かない自民党3つ、民主党3つの計6政権が連なった。大胆な政策的対処など望むべくもない事態である。日本政治の対応能力が著しく劣化する一方、冷戦終結後の国際変動はかつてなく激しく、試練はますます大きい。この乖離に苦しみ続けるのが近年の日本の姿であった。

2012年末に再登場した第二次安倍晋三政権は、日本再生の試みにとりかかっている。デフレを終わらせ、株価を上昇させることにひとまず成功したが、日本経済に再成長軌道と呼び戻す展望はまだ明らかではない。2年間に約50か国を訪問するほど外交を活発化し、中国・韓国以外の多くの国々と良い関係を再建し、昨秋は中国との首脳会談を実現した。視野狭小なナショナリズムを排し、

異なる文化的背景をもつ多くの国々に敬愛の念をもって交わらなければ、日本は21世紀の荒波を安全に航海することは難しいであろう。

二つの陣営が対峙した冷戦が終わって、四半世紀になる。その間に何が起こったか。大きく見れば二つの潮流が勃興した。一つは、各国と各地域のかかえてきた歴史的要因の再浮上である。冷戦体制によって抑え込まれていた各地域事情が解放され、民族紛争や宗教運動が世界的に頻発した。アイデンティティ政治の再生といってもよい。いずこの国でもナショナリズムが高まり、自己中心的な国益外交が一般化した。

もう一つの潮流は、グローバル化である。近現代の歴史において国際化は止むことなく進行したが、冷戦終結後90年代はその新局面を迎えた。冷戦期の壁が取り払われたことにより国際化の流れは地球規模でノーガードとなった。加えて国際化を促進する新手段として、アメリカ発のIT(情報通信)革命が加わった。この新状況ゆえに80年代までは「国際化」と呼ばれていたのに対し、90年代からは「グローバル化」と称されるようになった。

このITグローバリゼーションの潮流に対し、各国・各地域の文化的伝統を誇りとするアイデンティティ政治が激しく反発する。9.11同時多発テロから「イスラム国」に至るイスラム原理主義運動はその最たるものである。両潮流のせめぎ合いの中で、今日の世界は荒模様なのである。

日本周辺の事態が、それに割って入る。中国の台頭である。歴史上、新しい大国の勃興はしばしば大戦乱を巻き起こしてきたが、中国はなかでも巨大なスケールの台頭である。経済的な台頭だけでなく、軍事的台頭をも合わせて進行させており、既存秩序は大きな試練にさらされている。

このような激震の中で、日本人はどう生きるべきか。

第一に、戦後の日本が育んできた平和主義を資産として、当分続く戦乱の時代を平和のうちにくぐり抜ける覚悟を固めねばならない。自国が二度と戦争をしないという戦後平和主義だけでは十分ではない。力を増強し、それをういて資源や領土を奪おうとするような周辺国に、それを自制させるような働きかけもできなければいけない。隣国が粗暴に振舞ったからといって、自分も喧嘩腰になって応酬すれば済むものではない。日本は静かに対処能力を高めるとともに、高い品位を保ちながら平和的な問題解決を説き、国際的連携によって説得力を高めねばならない。

第二に、荒れた時代にあつてこそ、多くの国民との間で交流と相互理解を深めることが大切である。テロや乱暴が頻発するからといって、日本人は感染してはいけない。暴力と無法が世界を支配し続けることはありえない。グローバル化時代に身近となる世界中の国と文化に敬意をもって接し、愛することが基本である。それは日本自身の文化を豊かにするであろう。異文化共生の時代をたくり寄せる日本でなければならない。

グローバル化時代の波に乗ることに、これまで余り成功しなかった日本であるが、今後成功するためには、二つのtool（道具）が不可欠である。一つは、世界共通語の役割を果たすようになった英語であり、もう一つは留学もしくは外国滞在体験である。単なる観光旅行を超える異文化への好奇心と言ってもよい。自国しか知らない者は、実は自国すら知らないことがある。異文化と世界を知ることを通して、自らを知ることができる。異文化の人々と知り合い、友達になること、そうした一人ひとりの国民があつてこそ、日本はグローバル化した世界の中で生きていくことができる。21世紀の荒模様の世界の中でも平和をもたらす国として。

著者紹介 五百旗頭 真 (いおきべ まこと)

専門分野／政治外交史
主要著書／『日米戦争と戦後日本』（講談社学術文庫、2005年）、『占領期』（講談社学術文庫、2007年）、『日本は衰退するのか』（千倉書房、2014年）、日本文教出版『中学社会公民的分野』教科書著者

この論考は、スマートフォンやタブレットをかざすと、動画が楽しめます！

- 「カザスマート」アプリを立ち上げ、マークがあるページで紙面にかざすと、動画が始まります。



※動画は、2015年7月31日まで視聴できます。

- 専用アプリ「カザスマート」をダウンロード下さい。



グローバル化する社会の特色と教材化の視点 ～『フラット化する世界』をてがかりに～



東京家政大学准教授 二川 正浩

1. はじめに

中学校の学習指導要領では「公民的分野の導入部」として、「これから始める公民的分野の学習に対して生徒の関心を高める」ことをねらいとした導入単元が次のように設定されています。

大項目	(1) 私たちと現代社会
中項目	ア 私たちが生きる現代社会と文化 イ 現代社会をとらえる見方や考え方

その中項目のアでは、「高度経済成長から今日までの変容」にかかわって、「少子高齢化、情報化、グローバル化」などを内容として取り上げることになりました。そのねらいは現代社会の特色を理解させることですが、現代社会の歴史学習の充実を受けて、焦点化した特色を具体的に理解させる授業が求められるようになったと言えるでしょう。

さて、本稿ではそのなかのグローバル化をとりあげて、その社会の特色と教材化の視点についてトーマス＝フリードマンの『フラット化する世界』¹⁾を手がかりとして述べていきたいと思えます。

2. グローバル化する社会の特色と教材化の視点

(1) 加速するグローバル化とその要因

グローバル化という言葉が一般化するのには1990年前後からですが、フリードマンは次のようにグローバル化の時代区分を行っています。

1.0	段階	国のグローバル化
	年代	1492 (大航海時代) ～ 1800年頃
	原因	腕力、馬力、風力、蒸気動力

2.0	段階	企業のグローバル化 (多国籍化)
	年代	1800 ～ 2000年頃
	原因	輸送コストや通信コストの軽減
3.0	段階	個人のグローバル化
	年代	2000年頃～
	原因	情報技術 (IT) 革命や流通革命

このように国際競争や国際分業は今に始まったことではなく、学習指導要領解説に示されている「貿易などで国際競争と国際分業が加速しつつあること」(下線部は筆者)を理解させるうえで、この時代区分は歴史的分野との関連を図る教材化の一つの視点となるでしょう。

また、その加速を促した要因としてフリードマンは10の要因をあげています。その要因を大まかにまとめると次のようになります。

- ①経済圏の拡大 (ベルリンの壁の崩壊や中国のWTO加盟など)
- ②情報技術 (IT) 革命 (事例としてはインターネットの普及やソフトウェアの開発など)
- ③流通革命 (事例としてはウォルマートなど)
- ④情報通信革命 (事例としてはグーグルなど)

学習指導要領解説にはグローバル化について「大量の資本や人、商品などが国境を越えて容易に移動することができるようになってきていることを理解させる」(下線部は筆者)ことが例示されています。容易に移動することが可能になったグローバル化の特色を理解させるうえで、それらの事例は教材化の視点となるのではないのでしょうか。

(2) フラット化する世界と求められる能力

情報技術や流通、そして情報通信の革命は新たなビジネスチャンスをうみ、大量の資本や商品が国境を越えて移動するようになりました。また、インターネット、ツイッターやフェイスブックな

どによって、人々は瞬時に世界の様々な情報や商品を手に入れることができるようになりした。

この個人を巻き込んだ3.0の個人のグローバル化の段階は、国や地域を問わないフラットなプラットフォームの上で進みます。フリードマンはその社会を「フラット化する世界」と名付けるとともに、その世界で生き残る無敵の民としてオートメーション化、デジタル化、アウトソーシングされにくい三つの仕事につく人々をあげています。

- ①「かけがいのない、もしくは特化した」人々
- ②「地元に着」して「錨を下ろしている」人々
- ③新ミドルクラス²⁾へ移行した人々

①は医師や研究者、②は地場の知識や個人的な人との結びつきで仕事をしている無数の人々、そして③は数学的な知識やまとめ役などの調整能力を持った人々などです。

その上で、フリードマンはフラット化がさらに進むであろう世界で生き残るために必要な能力は、CQ（好奇心指数）+PQ（熱意指数）>IQ（知能指数）であると述べます。その理由は「世界がフラット化すると、仕事、成功、学業の分野はもとより、趣味のためにも、これまで以上に好奇心と熱意が重要になる。なぜなら、フラットな世界には、人間とその好奇心の奥行きと幅をどんどん広げるツールが山ほどある」³⁾からです。

このようにフラット化する世界は、新たな職業選択と雇用の機会を与える一方で、富を求めて生き残るためには国や企業だけではなく個人も競争する世界となりました。それらの見方と考え方は経済面とアメリカ人からの視野にやや偏っていますが、自分の将来の生き方や社会のあり方を学んでいく公民的分野の導入単位として、現実性を持たせる教材化の視点となるかもしれません。

3. おわりに

フリードマンの『フラット化する世界』は初版から10年が経ち、その考えや予測が色あせてし

まった観は否めません。また、経済面でのフラット化（画一化）が進む一方で、文化面では人の移動やインターネット情報などによって、国や民族の異なる人々が持つ伝統や文化が見直されて、かえって多様化が進むとの指摘⁴⁾もあります。しかし、彼の見方や考え方からあらためて「少子高齢化、情報化、グローバル化」を考えて見ると、それらがお互いに密接に関連していることに気付かされます。

例えばグローバル化と情報化がお互いの必要性から革新をとげていること。グローバル化が女性や高齢者の職業の選択と雇用の機会の幅を広げて、少子高齢化を解決する手がかりとなる可能性があること。そして、グローバル化が進む一方で「異なる文化との共存や国際協力の必要性が増大してきている」(学習指導要領解説)という多様化が進むこと。それらの関連を意図した融合的な導入単位としての構成を行いながら、グローバル化の教材化を行っていく。そのような視点も示唆してくれるのではないのでしょうか。

最後に、学習指導要領解説では「写真や統計資料を用いるなど工夫」を求めています。ICTによるフラット化（どこでもだれでも使える画一化）が進むなか、その一つとしてNHK for School⁵⁾などの活用も検討されてはいかがでしょうか。

- 1) フリードマンはピューリッツァー賞を3度受賞したアメリカのジャーナリストで本書は2005年初版。本稿では日本経済新聞出版社の普及版（2010年）を参照した。
- 2) フリードマンは、旧ミドルクラスを代替や外国とのやりとりが不可能と考えられていた組立工や経理などについていた人々などとしている。
- 3) 前掲書p.110
- 4) フリードマンはこの点について、グローバル化がアメリカ化することではないとは述べている。
- 5) 動画の無償提供を行っているが、グローバル化の授業で活用できる映像も提供されている。

著者紹介 二川 正浩（ふたがわ まさひろ）

専門分野／社会科教育学，教育実践学
主要著書／『社会科教育の再構築を目指して』（共著，東京学芸大学出版，2009年），『究極の中学校社会科－歴史編－』『究極の中学校社会科－公民編－』（共著，日本文教出版，2012年）

異質な他者との社会形成をめざす 歴史教育



鹿児島大学准教授 田口 紘子

1. グローバル社会に生きる 児童・生徒

グローバル社会に対応する教育といえば、まずは英語教育、そして留学や海外赴任などで日本国外の社会に適応していくことに目が向けられがちである。海外で異質な他者と英語で交渉する能力は特別な児童・生徒にだけ必要なものかもしれない。しかし日本の国内であっても、日本語であっても、日本人同士であっても、よりよい社会の実現をめざし、異質で多様なバックグラウンドを持つ他者とともに協働していく能力や態度は、すべての児童・生徒に必要とされるだろう。

「歴史の理解は、異文化理解である。異なる時間や空間の人々を理解するのだから」と言われる。本稿では歴史教育にスポットを当て、グローバル社会に対応する授業づくりについて考えていこう。

2. 歴史を学ぶ際に期待されている具体的な行動

私たちはなぜ歴史を学ぶのだろうか。なぜ子どもたちにも学んでほしいと考えるのだろうか。子どもたちが歴史を学ぶ際、私たちは彼らが歴史をどのように扱うことを期待しているのだろうか。

米国やガーナ、北アイルランドなどで子どもたちの歴史的思考に関する調査研究を長年行ってきたインディアナ大学ブルーミントン校のバートン教授とケンタッキー大学のレヴスティク教授は、子どもたちが歴史を学ぶ際に期待されている具体的な行動には、大きく四つあると指摘している (Keith C. Barton and Linda S. Levstik, *Teaching History for Common Good*, Lawrence Erlbaum Assoc

iates, 2004 (渡部竜也・草原和博・田口紘子・田中伸訳『コモン・グッドのための歴史教育—社会的文化的アプローチ』2015年3月刊行予定))。さらに、それぞれの行動は、下の表のようにそれぞれ三つの異なった目的へと方向付けでき、行動と目的の組み合わせを「スタンス」と呼んでいる。

スタンス (行動と目的の組み合わせ)		
期待される具体的な行動		目的
① 自己認識	過去の何らかの要素と自己を同一視する	個人史や家族史の自己認識
		国家的な自己認識
		国の現在と過去の同一視
② 分析	過去の要素間のつながりを調べる	原因と結果の理解
		過去から教訓を学ぶ
		歴史的説明の作られ方を学ぶ
③ 道徳的応答	過去の人々や出来事を記憶し、称賛し、非難する	追憶
		称賛
		非難
④ 陳列展示	過去についての情報を表現する	個人的充足
		説明責任
		他者への貢献

表 歴史を学ぶ際の四つのスタンス

3. どのスタンスで、 どのような歴史的人物や 出来事を取り上げるのか

実際には、多くの歴史授業がいくつかのスタンスで構成されており、必ずしも相互に背反するとは限らない。しかし、時として諸スタンスは相互に背反する。たとえばクリストファー・コロンブスについて、自分と同じ民族集団の一員であることからコロンブスに結びつきを感じて自己認識す

る人(左表①)もいれば、コロンブスが略奪したことを非難し、道徳的に応答する人(左表③)もいる。

バートン教授らは、行動と目的の関連についてより注意深く考えることで教師は授業についてより効果的な決定を下せるようになるに違いないと述べている。それではグローバル社会で求められる歴史授業を構想する時、どのようなスタンスで、どのような歴史的人物や出来事を取り上げることができるのだろうか。

4. 「自己認識スタンス」の可能性と限界

紙幅の都合から本稿では、客観的で知的な歴史理解からは程遠いように思われる「自己認識スタンス」を取り上げ、グローバル社会の形成に貢献する歴史授業について考えてみたい。

最初の^ア^{フリ}^カ^系^ア^メ^リ^カ^人宇宙飛行士であるグイオン・ブリュフォード(Guion Bluford)を米国史の授業で取り上げる必要があるかどうか考えてみよう。彼は人類最初の宇宙飛行士でもないし、米国人最初の宇宙飛行士でもない。アフリカ系アメリカ人宇宙飛行士というマイノリティの偉人は、米国社会に大きな影響を与えたわけではないという見方もできるだろう。

しかしバートン教授らは次のように述べる。

こうした偉人たちをカリキュラムに含んでいくことの目的は、子どもたちにそのような歴史的出来事の因果関係の理解を助けることにあるのではない。…(中略)…子どもたちに期待されていることは、彼ら偉人たちと自身を同一視することなのだ——アフリカ系アメリカ人の子どもたちにとっては、子どもたちが自身の民族集団を国家の歴史の中の能動的な参加者であると捉えることができるように。そしてその他の民族集団の子どもたちにとっては、合衆国は誰もが国家の発展に寄与できる多文化社会であると捉えることができるように。

属している民族集団に関わらず、誰もが米国へ貢献できるという感覚は、米国への愛着や社会の



写真1
コラージュを
解釈する米国の
小学校歴史
授業の導入場
面



写真2
公民権運動を
学ぶ単元での
教室の掲示
(写真はすべて、
2011年
5月24日筆者
撮影)

形成者としての自覚を生み出すことができる。バートン教授らも「私たちがお互い支え合いながら生活していきたいと望むのであれば、歴史による自己認識はその実現に向けて力強い手段を提供することになる」と述べている。

しかし「自己認識スタンス」にも限界がある。ただ一つの集団や国家と自身を同一視する時、異質な他者を排斥したり抑圧したりしやすい傾向があるという。バートン教授らはその他の「スタンス」にも可能性と限界の両面があることを指摘しており、教師が子どもや学習内容などに適切な「スタンス」を組み合わせて、主体的に授業をデザインしていくことを求めている。

地域、日本、地球への愛着をもち、それらを異質な他者とともによりよくしていこうとする能力や態度を育成する歴史授業こそがグローバル社会で求められている。

著者紹介 田口 紘子 (たぐち ひろこ)

専門分野/社会認識教育学, NIE

主要著書/『現代アメリカ初等歴史学習論研究』(風間書房, 2011年), 『中等社会科教育』(共著, 協同出版, 2014年), 『“国境・国土・領土”教育の論点争点』(共著, 明治図書, 2014年)

「中学校での学習に繋げる」 第6学年の社会科学習

1. はじめに

筆者は、昨年度まで四半世紀以上、中学校で社会科の教科指導を行ってきた。今年度、異動により小学生への指導を行うこととなった。現在、第6学年で社会科の指導を行っている。これまでの中学校という学校段階での経験を現在の小学校での日々の指導に活かしていきたい。

2. 考察方法

第6学年の社会科学習を「中学校での学習に繋げる」ためには、次の(1)から(3)の方法で考察していけるだろう。

(1) 中学校の指導からのぞむ、小学校での指導や学習方法・学習内容から検討する

学ぶにあたっての望ましい生徒像として、また学ぶ集団として、中学校での指導の中で感じた、中学校に入学する前段階のうちに身につけてほしい事がらをあげてみる。ひとつは「机上进行を整頓して学習にのぞめる」「ペアやグループの学習がスムーズにできる(役割分担、話し合い等)」「適切にノートにまとめられる」等の学習習慣に関する事。これらは、いわゆる学業指導を継続的に行うことによって定着させられるであろう。もうひとつは、「学ぶ楽しさを感じながら取り組める」等の取り組みに関する事。いまひとつは「時代を代表する主な歴史上の人物とその功績等を知っている」「世界の主な国々のあいさつ言葉、特産物、食べ物、文化、有名人等の代表的な特色を知っている」「タイムリーな出来事・人物・地域、政治に関する主な動き等に興味・関心があって、そのあらまし又は一端についてある程度知っている」

栃木県鹿沼市立さつきが丘小学校 青木 靖

「知っていることや学んだことをつなげて考えたり理解したりできる」等の知識・理解に関するものである。これらのことをもとに検討していくことができるであろう。

(2) 小学校の指導での実態や印象から検討する

4月から、第6学年では内容(1)にある歴史学習を行ってきた。内容の取扱いにおいて「実際の指導に当たっては、例えば…を調べる学習、…を考える学習」とあり、発達段階や児童の実態をふまえて、適切な課題を教師側で与えて、手持ちの資料を用い、調べる学習を多く取り入れてきた。児童の作品分析や観察といった方法での評価で見たことや、日々の授業で直感的に感じたことがある。また、児童の質問、やりづらさ、表情、理解不十分・見間違いといった児童の反応でもこれまでの中学校での指導からすると意外なことがいくつもあった。それらをもとに検討していくこともできるであろう。

(3) 小・中学校両指導要領を熟読し、その繋がりや本質の違いに着目して検討する

小・中学校学習指導要領解説社会編(以下、それぞれ「小学校指導要領」「中学校指導要領」という。)を熟読してみた。その中で「理解」をキーワードとして考察してみた。本稿では「理解」に関する関連や本質の違い、その中でも特に「違い」に着目して「中学校での学習に繋げる」第6学年の社会科学習のあり方を検討してみた。

3. 「中学校での学習に繋げる」という視点

「中学校での学習に繋げる」という視点も考慮し、第6学年の社会科の学習を行うには、次の4

点を意識していくとよいと仮説を立てた。なお、必ず考慮しなければならないことがある。それは公教育である小学校での指導であるため、中学生がやることや、中学生に求めることをやらないということである。例えば、小学校指導要領に示された「通史的に展開し知識を網羅的に覚えさせるのではない」といったことである。その点には注意していく。

- ①中学校社会科で育成を目指す資質・能力に繋げる。その素地をつくる。
- ②社会科（歴史的分野）の学び方や見方・考え方の基礎に気付かせる。
- ③中学校の学習内容に関わって、理解してほしい、知っていてほしい、ふれてほしい社会的事象・事から・考え方についてふれる。
- ④小学校の学習内容が、中学校での学習に、「より活きる『知識』」となるようにする。

紙面の都合上、次の項以降において、④について前述の2（3）の方法をもとに考察していく。

4. 学習指導要領の中の 小・中学校での「理解」に関する相違点

それでは指導要領に示された「理解」に関して見てみよう。

（1）小学校における「理解」に関して

小学校の理解に関する目標は次のようになっている。内容の（1）にかかわる理解と態度に関して示された目標（1）において、「今日の国民生活は国・社会の発展に貢献した先人によって作りだされた歴史や伝統の上に成り立っているもの」であることから、「『国民生活の歴史的背景として』の我が国の今日までの歴史に目を向ける」となっている。換言すれば、学習内容として取り上げた歴史的事象は、国民生活にどのように関わっているか反映されているかということによって理解させ

るととらえればよいのであろう。そして、第6学年の内容となる「人物」と「文化遺産」は次のように扱うこととなっている。（省略→『小学校学習指導要領解説社会編』P.84 内容の取扱い(1)－ア）

次に、「理解」に関わる「歴史の学び方」に関して見てみよう。（省略→前掲書P.84 内容の取扱い(1)－イ）

続いて、こちらも「理解」に関わる「歴史の見方や考え方」についても見てみよう。「歴史の見方や考え方の指導に当たっての配慮事項」として次のことに気付かせると示されている。すなわち、「我が国は長い歴史をもち伝統や文化をはぐくんできたこと」「我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に区分できること」である。これらを、発達段階を考えて児童の言葉に置き換えたとすれば「日本って歴史が長いのだなあ」「長い歴史の中で色々伝わったことや創られた文化があるのだなあ」「政治を行う場所が変わったり世の中の様子が変わったりしているのだなあ」「それらを見てみるといくつか時期を分けることができるのだなあ」といった表現となる。これらの気づきが一連の小学校での学習を通して出てくるような指導が肝要であるということを示しているのとらえられる。そして、児童のこれらの気づきを後述する中学校の学習の中心となる「我が国の歴史の大きな流れ」の理解につなげていくことが重要となっていくのであろう。

（2）中学校における「理解」に関して

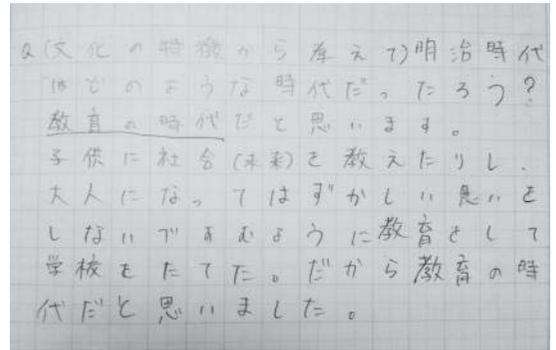
中学校では「我が国の歴史の大きな流れ」の理解のための具体的な内容を学習内容としている。歴史的分野の基本的な目標である（1）では、歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものだとしている。すなわち、我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大き

くとらえさせることが学習の中心であることを示している。

小学校の学習内容となる「人物」と「文化遺産」に関する事項は、中学校指導要領では「歴史を具体的に理解させるために、歴史の展開の中で大きな役割を果たした人物や各時代の特色を表す文化遺産を取り上げる」と目標の(2)に示されている。なお、人物の学習については、歴史が人間によってつくられてきたものであることを踏まえて、国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物を取り上げ、主体的に社会を変革しかつ歴史の形成に果たした役割について学ぶことが大切であることや、その際、人物の活動した時代背景と地域とを関連させながら、その果たした役割や生き方を具体的に理解させる必要があることが記されている。また、文化遺産の学習については、風土的条件と文化的伝統及び現在とのかかわりに目を向け、その価値を考えさせて、それらを尊重する態度を育成することが求められている。

5. 「中学校での学習に繋げる」手立て

社会科は内容教科であることが教科の特色である。とりわけ「我が国の歴史の大きな流れ」を各時代の特色を踏まえて理解させることが中学校歴史的分野の学習の中心である。それゆえ、時数や子どもの負担や発達を踏まえ学習内容を精選するが、因果関係等を踏まえて理解させたり、思考・判断・表現させたりするには、十分な知識が必要である。それだけを考えれば、前段階である小学校で知識量を増やすことがひとつの方策であろう。しかし、公教育である小学校の教育課程の中で、指導すべき知識量を必要以上に増やすことはできない。そこで、小学校の学習内容が、中学校の学習に「より活きる『知識』」となるようにする。すなわち、小学校で理解させた事らがどのように中学校で知識として活用させるかが重要となっ



文化の学習から時代の特色を考える活動例①

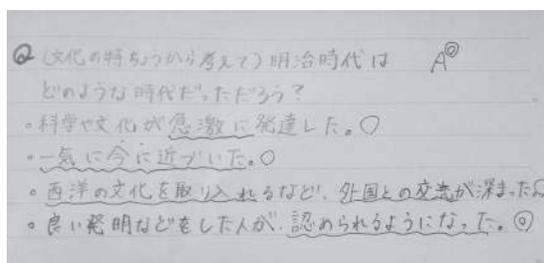
てこよう。そこで今回二つの手立てを考えてみた。

(1) 「人物」と「文化遺産」の学習からの「時代の特色」のある程度のおさえ

小中それぞれの学び方、見方・考え方の関連や違いを考慮しながら、学習内容をどのように理解させるかがポイントとなるであろう。繰り返すが中学校の歴史的分野のねらいは「我が国の歴史の大きな流れ」を理解させることである。小学校では、学んだ歴史上の人物が「どんな課題を解決したか」について調べ、まとめて理解することとなっている。ここに、「ふれる」「におわせる」程度の学習活動や教師の関わりでも充分であるから、プラスαのことをやるとよい。

「どんな課題を解決したか」について調べて、人物の業績のみの理解にとどまらず、「どのような(人々の)願いを実現しようとしたか」を明確にし「なぜそのような人々の願いがあったか」「どうして課題が解決したのか」という部分について小学校でふれておくことによって、歴史的事象の背景・原因・要因・変化等にも着目することとなり「時代の特色」を児童がある程度おさえることとなる。それが中学校の「歴史の大きな流れ」の理解につながっていくだろう。

その学習活動を行うにあたっては、単元の中での位置づけを発達段階や既習内容等を踏まえ十分検討すべきであろう。例えば、導入で行うとすれば、知識がない中でのあくまでも予想となり、根拠がもてない、いわゆる思いつきの発言となり、深まりのないあまり意味のない活動となってしまう



文化の学習から時代の特徴を考える活動例②

うので不向きである。終末で行うとすれば、「技能」を目標とした、または気づかせる程度の「思考・判断・表現」を目標・評価としたまとめの活動として位置づけられよう。それらを行うにあたっての留意点としては、一つ目は学習課題の質、二つ目は評価基準、三つ目は授業の中での活動の軽重の位置づけをあげたい。学習課題については、例えば「徳川の世」の単元の終末に「なぜ徳川氏（幕府）は支配をがっちり固めたのだろうか」という課題での学習を位置づけてみてはどうだろう。仮に「徳川氏（幕府）はどのような政治をしたのだろうか」の課題では、児童は幕府の政策を列挙するにとどまるであろう。前者の課題であれば、幕府が成立する前の時代背景や人々の思いや家康の生き方等を根拠とした「時代の特徴」に関わる児童の発言が期待できよう。なお、評価基準については「思考・判断・表現」を目標・評価とした活動では、例えば、当時の人々に関わるような学習内容について気付かせる程度に考える活動としてのものにすべきである。三つ目にあげた授業の中での活動の軽重については、授業の終末にダイナミックな話し合い活動または表現活動等を位置づけてみるとおもしろい。ただし小学校の学習の範囲ではないため、中心の活動とすべきではない。

もし、生徒の実態からより高度な活動が可能であれば、中学校の歴史的分野のねらいである「我が国の歴史の大きな流れ」の理解により近づく活動もできよう。例えば「時代の特徴」を授業の中でそれを児童に見出させたり理解させたりする、あるいは「どのような時代の課題があったか」「どのように発展したか」等を考察させる、さらには、

いくつかの児童の話し合いをもとに「どんな時代であったか」を考察させるという活動も考えられる。

(2) 「人物」と「文化遺産」の学習の「時代の移り変わり」への関連付け

「歴史を具体的に理解させるために、歴史の展開の中で大きな役割を果たした人物や各時代の特徴を表す文化遺産を取り上げる」、人物については「主体的に社会を変革しかつ歴史の形成に果たした役割について学ぶことが大切」と中学校指導要領に示されたことも踏まえ、小学校での学習内容が中学校での「歴史の大きな流れ」を理解するための「知識」となるよう、小学校で「時代の移り変わり」に関連付けた学習をしてみてもどうであろう。

具体的な学習活動・内容としては、学んだ歴史上の人物や文化遺産が時代の移り変わりへどのように関わったかをにおわせる逸話や中学校の学習の話等を教師がすることが考えられる。例えば、江戸幕府最後の将軍となった徳川慶喜は明治時代はどういう立場でどのような生活をしたかを予想させたり、中学校の学習内容ではあるが、新しい明治政府の構成メンバーはどんな人たちかを予想させたりするような、簡単な学習活動・内容を単元のまとめ又は初めに入れてみるといったことである。その際、中学校の学習に繋げるような教師のほのめかしや逸話を話し、感想も書かせると、より児童の印象に残るであろう。

6. おわりに

長年中学校社会科の指導や評価について実践や研究を行ってきたが、その範囲の中ではあまり見聞きしなかったタームが小学校指導要領にあったのは驚きであった。不勉強ぶりが露見されてしまった感もあるが、中学校において実践研究を行う場合とりわけ「育成したい資質・能力」「目標・評価」の研究を行う場合は、違った学校段階のそれについて見ておく必要があることがわかった。

大分市の小中一貫教育

小中一貫教育モデル校として「賀来」・「竹中」小中学校の取組みを振り返って

大分県大分市立戸次小学校長 安部 俊児

1. はじめに

現在、私は大分市の南部に位置する戸次小学校に校長として勤務する。これまで管理職として9年間を過ごす中で、8年間を小中一貫教育校で勤務してきた。前半の4年間を賀来小中学校の教頭として、また、後半の4年間の1年目は竹中小学校の教頭として、残り3年間を同校の校長として小中一貫教育の推進に努めてきた。

それぞれの勤務校での小中一貫教育の様子をその特色を踏まえながら紹介し、最後に大分市の小中一貫教育の一端を紹介したい。

2. 賀来小中学校での小中一貫教育

大分市の西部に位置する賀来小中学校（平成19年4月開校）は、当時児童・生徒数約750名程度、大分県で最初の併設型小中一貫教育校である。

賀来小中学校の取組みは、開校前年の平成18年に研究推進校として始まる。先進地校の視察・調査等を皮切りに研究を進め、東京都日野学園や宮崎県平岩小中学校の実践は参考になった。



写真1 開校記念式典

左の写真は、開校を迎えた平成19年5月の賀来小中学校の開校記念式典の一幕である。学校長が教育委員会から小中を統一

した校旗を受けているところである。

県下初の「併設型小中一貫教育校」として開校し、市が抱える教育課題に対して、少人数指導や

算数・国語、さらには小学校の英語教育（中学校教師の乗り入れ）の充実、教科担任制等、9ヵ年を見通した教育課程の作成を行った。

3. 竹中小学校での小中一貫教育

次に、南部に位置する竹中小学校（平成23年モデル校当時）は児童数、40名の小規模学校である。

竹中小・中学校の小中一貫教育の取組みは、平成21年度「実践研究指定校」の指定から始まる。同23年にモデル校の指定を受け3年間の実践研究に取り掛かった。

賀来小中学校での小中一貫教育にかかるノウハウを連携型小中一貫教育校として竹中小学校・中学校（以降竹中小中）に導入した。まずその第一は、特別活動を主に学校行事の同時開催である。



写真2 小中合同「お見知り遠足」

大きな行事として春の「お見知り遠足」から、秋の「小中合同運動会」・「小中合同文化祭」、さらに「竹中文化教室」と一年間を通して合同行事を仕組んでいった。



写真3 小中合同文化祭

左の写真は、小中合同文化祭の様相である。

小学校の子ども達は、中学生の先輩の姿を見て、将来あるべき自分の姿を見取っていく。正に小中一貫教育のなせる教

もうひとりの息子

国立民族学博物館助教 菅瀬 晶子



【もうひとりの息子】

- DVD 販売中
- 販売元：TC エンタテインメント
- 2012年 フランス映画, 101分
監督 / ロレーヌ・レヴィ
- (C) Rapsodie Production/Cité Films/France 3
Cinéma/Madeleine Films/SoLo Films

物語

イスラエルの海辺の町テルアビブに暮らす、フランス系ユダヤ人のシルバーク一家。軍大佐の父親アロンと精神科医の母オリット間に生まれたヨセフは18歳を迎え、兵役に就くための身体検査を受ける。血液検査の結果を聞いたオリットは疑問を抱き、同僚に再検査を頼んだ。ヨセフの血液型は、自分とアロンの子どものとはありえないものだったのである。

数週間後、アロンとオリットはヨセフが生まれた病院から呼び出しを受け、ムスリムのパレスチナ人、サイドとライラのアル・ベザズ夫妻と引き合される。そして彼らは、衝撃的な事実を知らされる。ヨセフとアル・ベザズ夫妻の次男ヤシンは、湾岸戦争の混乱のなかで取り違えられていたというのだ。長い紛争状態にあるイスラエルのユダヤ人と、パレスチナ人は敵同士。愛するわが子

が、“敵の子”だったとは……。現実を受け入れられず、アロンとサイドは席を立つ。しかしオリットとライラはそっと手を取り合い、互いを気遣った。その直後、ライラはフランスに住むヤシンから、大学の医学部に入学資格を得たという知らせを受ける。数日後、一時帰国したヤシンを歓待するライラと長男ビラル。しかしサイドは、久しぶりに再会した息子にぎこちない態度しか取れない。

事情を知らされたヨセフとヤシンはショックを受けるが、互いに会うことを望み親しくなってゆく。互いを自分の分身と考えるようになった二人は、イスラエルとパレスチナの関係についても思いを巡らせる。母親たちもまた心を通じ合わせ、ヨセフとヤシンの両方をわが子として慈しむようになる。やがて、どうしても冷静に向き合うことができなかった父親たちと、事情を知って以来ヤシンを拒絶していたビラルも、血の繋がりを越え

た家族の絆を自覚するようになる。イスラエルとパレスチナの間に横たわる深く暗い溝を、彼らは埋めることができるのだろうか。

「分離壁」を越えて、 同じ人間として向き合う

互いに行き来を繰り返すヨセフとヤシン、そしてシルバーク家とアル・ベザズ家の面々が、高いコンクリートの壁を越える場面が幾度か登場する。パレスチナ側のヨルダン川西岸地区を取り囲むようにイスラエルが建設した、「分離壁」である。この壁を、イスラエル側は「安全保障フェンス」と呼び、パレスチナ側は「アパルトヘイト・ウォール」と呼ぶ。60年以上の長きにわたって続く、パレスチナ・イスラエル紛争を象徴する建造物である。

オスマン帝国の支配を受け、漠然とパレスチナと呼ばれていた地域に、シオニズムに基くユダヤ人国家イスラエルが建国されたのは、1948年のことである。このとき、パレスチナに住んでいたアラブ人（パレスチナ人）の多くが、ユダヤ人民兵によって住んでいた街や村を追われて難民となった。その数は80万とも、120万ともいわれている。パレスチナ人たちは故郷の解放と難民の帰還権を訴え、それを許さないイスラエルとの間では長い紛争状態となっている。ことに1980年代末と2000年代初頭に起こった、イスラエルの占領に対抗するパレスチナ人による民衆蜂起（インティファダ）の時期には、双方に多くの犠牲者が出た。パレスチナ・イスラエル紛争にまつわる映画も数多く制作されており、なかでも「分離壁」建設の口実となった、パレスチナ側による自爆攻撃をテーマとした『パラダイス・ナウ』（2005）と、歌の力で占領に抵抗するパレスチナの若者たちを追ったドキュメンタリー『自由と壁とヒップホップ』

（2008）は、日本でも評判となった。

『もうひとりの息子』は、過酷な現実を反映したそれらの作品と比べると、ご都合主義な部分が目につく作品ではある。取り違えられた息子二人が両方ともフランス語を日常語とし、意思疎通が問題なくできるという設定は、偶然にしてはできすぎている。フランス国籍の監督や俳優陣を中心に製作する以上、そのような設定にするしかなかったのであろう。しかし、結果的にはユダヤ人とパレスチナ人が互いの母語（ヘブライ語とアラビア語）を知らないという現実も描写することにつながり、意味がわからないながらも聴きおぼえたアラビア語の歌をヨセフが歌い、アル・ベザズ家の面々を和ませる場面を感動的なものにしていく。ご都合主義な部分はほかにもみられるが、敵対するユダヤ人とパレスチナ人が、血の通った平等な人間として向き合うという物語の尊さは注目に値する。

2014年夏、パレスチナ側のガザ地区がイスラエル軍によって激しく攻撃され、2000人以上の犠牲者を出した。イスラエルとパレスチナの関係は今も悪化の一途をたどっている。本作のともした希望は、まさに風前の灯であるかもしれない。しかしながら同じ人間として、そのささやかな可能性を信じたいと願わずにはいられないのである。

著者紹介

菅瀬 晶子（すがせ あきこ）

専門分野／文化人類学、中東地域研究

主要著書／『イスラエルのアラブ人キリスト教徒』（溪木社、2009年）、『イスラームを知る6 新月の夜も十字架は輝く—中東のキリスト教徒』（山川出版社、2010年）

国立民族学博物館（みんぱく）では、2月28日（土）の上映会「みんぱくワールドシネマ」で、「もうひとりの息子」を上映します（入場無料）。詳しくはみんぱくのホームページ（<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs>）をご覧ください。

富岡製糸場から発した工女の手紙

富岡製糸場総合研究センター所長 今井 幹夫

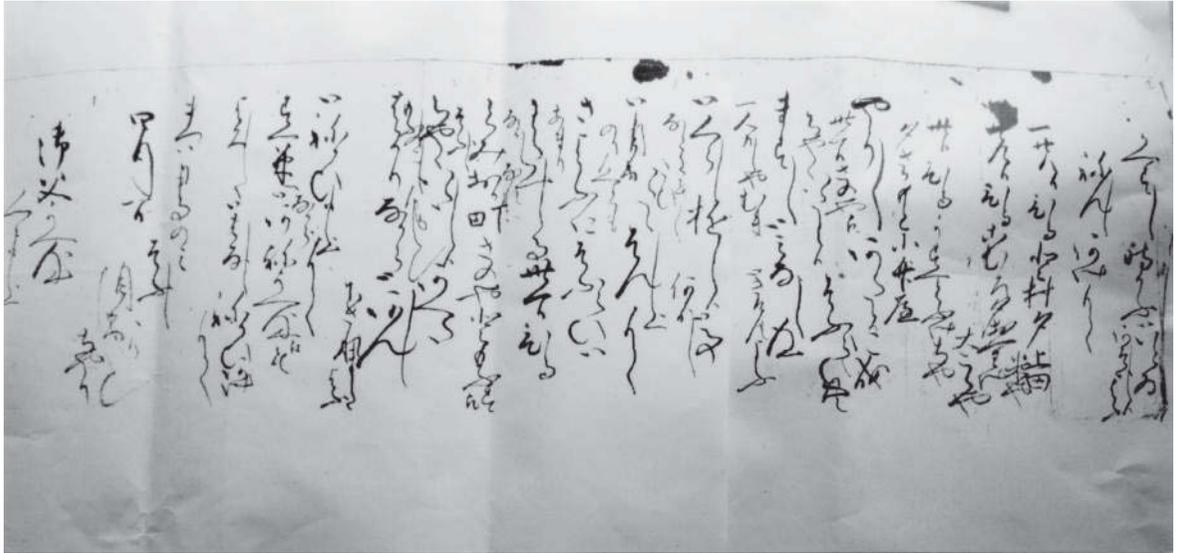


図 春日蝶が自宅におくった手紙 (1873年4月1日, 一部) (群馬県立歴史博物館蔵)

●読み下し文

やうく阿^(暖か)たたか二成そふらひ共、ますく御^(普々)ミなく様御きげんよふ御くらし遊し候御事、何よりく御目出たくぞんじ上げ奉り候、さようにそうらひバ、わたし事三十一ひるとみおか町さのやともふす江ちやくいたし候、阿へたばかりながら御阿んじ下されまじくよふ御^(お願い)祢かひ奉り候、すへ筆ながら御阿祢^(御師上)うへ様へもよろしく御はなし祢がひ阿げ奉り候、まつハ用事のミ、そ^(早々)ふく、目出度かしく

四月一日

ちょう

御父うへ様

人々申上

〈尚々書〉

かへすく時かふ御いとゐ阿そバし候よふ祢^(返す返す)

んじ阿げ奉り候

一、二十八日 ひる登村、夕上田米や

二十九日 昼こむる、夕おいわけ大こく

や

三十日 ひるうすへとふけちや、夕さ

かもと小竹屋

三十一日 さのや江ちやくいたし候

一、人力しゃむまなどにもたびく^(は)のり候へともあまりながくなればそ^(は)ふくもふしのこし候けり也

かしく

【解説】

- ①この手紙は、一四歳の少女が一人の仲間と共に信州松代から富岡製糸場へ伝習工女として入場するため、故郷を出立して富岡町に無事に到着したこと、報告と、道中の昼食地や宿泊地などを父親あてに書き送った第一信の手紙である。既に十分な手習いをしていたと思われ極めて達筆である。なお親は古着商である。
- ②読みやすくするために、筆者が句点を付した。
- ③尚々書を本文の前段や行間に記しているため、読みにくいので末尾に移した。

名前	年齢	身分
河原つる	一一歳	士族
横田 英	一五歳	〃
和田はつ	二四歳	〃
小林多加	二〇歳	〃
小林 秋	一五歳	〃
米山志摩	一七歳	〃
金井しん	一三歳	〃
長谷川浜	一一歳	〃
酒井 民	一二歳	〃
塚田 栄	一五歳	平民
春日 蝶	一四歳	〃
小林 岩	一四歳	〃
福井 亀	一六歳	〃
東井 留	一九歳	〃
坂西 滝	一三歳	〃
宮坂 品	一三歳	士族

表 松代からの工女 (『工女郷貫録』片倉工業(株)蔵より)

1. 富岡製糸場の本質的な価値

1872（明治5）年に開業した富岡製糸場は、官営の模範工場として外国との技術交流と技術革新を図り、やがて民営化した後も115年間にわたって生産活動を継続した。特に模範工場の役割は、全国から工女を募集し洋式の製糸技術の伝播を図るとともに、器械製糸所の普及・発展を促すことにあった。

この延長線上に位置づけるのが、1909（明治42）年に清国を凌駕して世界一の生糸の輸出国となったことであり、絹の大衆化に寄与したことである。

創建当初の木骨煉瓦造という和洋融合の堅牢で大規模の建造物群をほぼそのまま活用しながら、常に時代を先取りした製糸機械を導入して、生産の効率化や能率化を図って生産拡大を果たした。

しかし、1987（昭和62）年、国外の安価な生糸の大量生産や高品質の化学繊維の出現によって、長い歴史をもつ富岡製糸場は閉鎖を余儀なくされた。

経営者の片倉工業（株）は、由緒と歴史ある富岡製糸場の保存を決意し、「売らない、壊さない、貸さない」の大原則を固守して、2005（平成17）年まで完全に維持管理してきた。折しも群馬県知事が「富岡製糸場を世界遺産に」と提唱したことに賛同して全施設を富岡市に寄贈し、以後富岡市の管理となって、ユネスコの「世界遺産一覧表」への記載を待ったのである。

2014（平成26）年6月、カタールのドーハで開催された世界遺産委員会において「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産として議決された。また、創業当初の中核であった木骨煉瓦造3棟が、国宝に指定された（2014年12月10日）。

2. 女性の活躍

新しい製糸技術を習得すべく富岡製糸場へ入場した工女は、1884（明治17）年までに30道府県か

ら延べ3400人余を数えている。創業からこの時期が最も模範工場的な色合いが強いので、彼女たちは明らかに新技術を学ぶために入場した工女と言えよう。

彼女たちは、当初フランス人男女の技術者の指導に基づいて生糸生産を図りながら技術習得に努めたが、一方工場制度も導入したため、それになじめない工女も多く存在していた。

それらの苦心や生活実態を知る彼女たち自身の記録は少なく、その代表的な例として1873（明治6）年4月から7年6月に15人の仲間とともに信州松代から入場した横田英（結婚後和田姓）が、病気療養中の母親を慰めるために回顧録として書いた『富岡日記』を挙げることができる。

左ページの史料は、横田英らとともに入場したかすがちょう春日蝶が自宅に送った手紙の一部である。手紙はリアルタイム性が強く、退場後33年を経た和田英の『富岡日記』と対照してみると和田英の記憶違いも指摘できる貴重な史料である。

例えば、富岡製糸場の入場日を『富岡日記』では3月1日と書き、手紙は4月1日としているが、これは手紙のリアルタイム性を信用するべきである。この間の事情を分析すると、『富岡日記』は旧暦で記し、手紙は太陽暦で記していることから生じた違いである。なお、我が国は明治5年12月3日をもって明治6年1月1日として、旧暦を太陽暦に替えている。

春日蝶の手紙のような生の史料が数多く収集できれば、工女たちの生活実態や仕事に対する思いも知ることができ、富岡製糸場のさらなる研究が深まることになる。このように富岡製糸場は、まだまだ多面的な調査研究が課題でもある。

著者紹介

今井 幹夫（いまい みきお）

1934年、群馬県南牧村生まれ。教職についた後、富岡市教育委員会に勤務。小学校長や富岡市立美術博物館長などを経て現職となる。

主要著書／『富岡製糸場の歴史と文化』（みやま文庫、2006年）、『南三社と富岡製糸場』（上毛新聞社、2011年）、『富岡製糸場と絹産業遺産群』（ベスト新書、2014年）

新興国の台頭と国際秩序の変化(2)

神戸大学教授 栗栖 薫子

新興大国の台頭とその影響

グローバル化の中で新しく力をつけた国（新興大国：中国、インドなどBRICS諸国）が、国際政治の舞台に登場しています。それによってどのような変化が生まれているのでしょうか。今回は開発援助のあり方に焦点をあてて、新興大国、特に中国が援助の世界に参入することによって、これまでの原則や手法に影響を与えているのか、あるとすればどのような変化が生じつつあるのかに目を向けてみたいと思います。

これまでの経済援助の考え方とワシントン・コンセンサス

1980年代以後の途上国への支援において主流になった経済自由主義の考え方—規制緩和、市場原理の導入、民営化など—を、「ワシントン・コンセンサス」と呼びます。この考え方は、典型的には、1980年代から90年代にかけてのIMFや世界銀行による「構造調整プログラム」に反映されてきました。国際機関から途上国への融資の際に、民営化や緊縮財政など、被援助国における政策変更を条件として課したのです。そのやり方については、行きすぎた介入や、貧困層への打撃を生み出したことへの批判を受け、その後は、被援助国がプログラム策定から参加し、そして包括的な観点から貧困削減に取り組むような方向へと修正されるようになりました。とはいえ、ワシントン・コンセンサスは、アメリカ政府、また欧米出身者を組織のトップに据える国際通貨基金（IMF）、世界銀行で一定の共通認識となってきたといえます。

開発援助は、大きくみると国際機関等を通した

多国間援助と、援助供与国と被供与国の1対1で行われる二国間援助に分けられます。二国間援助はそれぞれの援助供与国の国益を反映させやすいといえます。それでも、別名「先進国クラブ」とも呼ばれる経済協力開発機構（OECD）において策定される方針に基づいて、各国の援助について一定の国際的な方向性——例えば最近では、人権、環境、ジェンダーの視点の導入など——が与えられてきました。また、世界最大の援助供給者である欧州連合（EU）の場合には、人権の尊重や民主主義、法の支配などの諸原則が、援助の供与条件として課されます。

新興大国の援助 —経済的利益の追求—

さて、新興大国、なかでも中国が台頭してきたことによる直接的な影響は、二国間経済援助の世界に顕著に見られます。その対象地域は、2009年データで、アフリカ45.7%、アジア32.8%、ラテン・アメリカ12.7%であり、アフリカへの比重が高くなっているのが特徴です。先進国ではない中国によるこれらの諸国への経済援助は、「南-南」援助ともいえます。経済援助と投資の区別が明確ではなく、インフラや産業への投資が中心です。自国の経済成長のために必要な、エネルギーや鉱物資源の獲得が目当てであるという見方が一般的に強くなっています。

他方で、中国がアフリカやラテン・アメリカで進める二国間援助は、欧米諸国や先進諸国を中心とした開発援助機関による援助方針との間で緊張をもたらしています。二国間開発援助においては、国際的な規範やルールによるしぼりが少なく、よ

り自国の利益を反映しやすい仕組みになっている上に、中国など新興大国はOECDの加盟国ではないため、開発援助の方針についての国際的な話し合いの場に参加していません。

北京コンセンサス

中国が、欧米型の援助の規範や手法に意識的に対抗しているという見方もあります。欧米型の「ワシントン・コンセンサス」に対して、中国型の経済援助の原則は「北京コンセンサス」と呼ばれるようになってきました。人権や国内政策などを援助の供与条件として課すことに中国は批判的です。これまでの欧米中心の開発の規範が、場合によっては介入的な性格を持ってきたことに対して、中国は被援助国の主権の尊重を強調しています。また、欧米による援助の供与条件に対して、条件をつけない援助のことを、中国自身は、中国式の「平和共存」精神に基づく位置付けています。

中国政府は、2011年4月、自国の対外援助方針を示していますが、それによれば、「援助受給国の自主発展能力を高めるよう助ける」「援助に政治的条件を課さない」「平等互惠、共同発展」などをあげており、基本的に被支援国の自主性と主権を重んじることが原則として述べられています。

国際的な援助方法との軋轢 —調整の必要性—

開発途上国の政治指導者にとって、新興大国の経済発展戦略や経済援助のやり方が、従来型の欧米による開発政策の対案として魅力的になっていると論じる研究者もいます。中国流の援助は、被支援国の政治指導者たちから「歓迎」を受けることもある一方で、欧米諸国からの批判を呼んでいます。

例えば、中国は資源の確保を目的として、ジンバブエ、スーダン等の人権抑圧国に対しても経済援助を行いますが、人権擁護の観点からこれに反

対する欧米との間で緊張を生み出しています。また、アンゴラへの二国間援助では、IMFから支援を受ける際に課される供与条件を、中国から二国間で支援を受けられることにより、アンゴラ政府が迂回することが可能になりました。

こうした中国式のやり方は、途上国の指導者からみれば、従来とは異なる「対案」の提示として受け取られる場合もあります。したがって、OECDの側でも、中国の援助経験から学べることは学びつつ、中国を巻き込んだ形で援助方針を調整していく必要性に直面するようになってきました。最近ではそのため、OECDの研究会などに中国が参加するようになってきました。

誰のための援助か —日本の果たせる役割—

他方、今後さらに検討する必要があるのは、こうした経済的利益の追求ならびに「主権重視」「平和共存」に基づく中国によるアフリカ支援が、単に援助方式の違いだけでなく、どのような結果をもたらすのかという点です。例えば、確かにこのような援助がアフリカ諸国の政治指導者たちに資するとしても、その国の人々の生活の改善や自由の享受に貢献しているのか、という援助の結果（人、社会、環境への影響）をめぐる問題があります。

現在にいたるまでの日本は、従来の国際的な方針に即しながら、ODA大綱に基づいて援助を実施してきました。そのなかで環境、人間の安全保障などを重視しながら、欧米的な介入的手法とは一線を画してきたといえます。中国の援助のあり方を国際的なルールにすり合わせていくうえで、日本が果たす役割があると思われます。

著者紹介 栗栖 薫子（くるす かおる）

専門分野／国際関係論 主要著書／『国際政治学をつかむ』（共著、有斐閣、2009年）、『「戦争」で読む日米関係100年―日露戦争から対テロ戦争まで』（共著、朝日選書、2012年）日本文教出版『中学社会公民の分野』教科書著者

デジタル教科書

この春、新しい教科書が子どもたちの手に届くとともに、準拠教材のデジタル教科書も登場します。小学校のデジタル教科書整備状況は、すでに42.2%^{*1} という数字が公表され、ますます指導や学習に効果的で良質な教材が求められています。

そこで、社会科でのデジタル教科書の活用について、教科書研究センターでの調査研究などを踏まえ、筑波大学の井田先生にご寄稿いただきました。

また、「平成27年度版 日文 小学社会 デジタル教科書」の効果的なポイント、こだわりの部分をご紹介します。ぜひご期待ください。

*1 文部科学省「平成25年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」

社会科におけるデジタル教科書の利点と期待

筑波大学教授 井田 仁康

① 地図や写真を読むスキルの育成に活用

社会科、特に地理にかかわる内容では、地図や写真を読み取るといったスキルの育成が重要である。デジタル教科書では、地図や写真の拡大が容易で、拡大した地図や写真を使って、注目すべきところを説明できたり、子どもたちの見方を確認できたり、地図や写真を題材とした意見交換もしやすくなる。さらには複数の情報が載っている地図から、必要な情報のみを提示することもできる。以前は、掛け地図を使って、地図を読み取るスキルを育成していたが、デジタル教科書では、より多くの地図や写真に、子どもたちを集中させての学習が可能となり、地図や写真を読むスキルの育成が期待できる。

② 臨場感のある動画資料

紙媒体の教科書では、インタビューや動きのある事象も文字や写真で提示されるので、臨場感という面ではやや物足りなかった。授業中にビデオなどで補足することはあっても、その場面的にままとめたものは少ないので、時間的なロスもあった。デジタル教材では、学習内容にふさわしいインタビュー(生の声)や動画が適切に組み込まれているので、時間的にロスのない、効果的な学習が期待できる。さらに、インタビューを含む動画資料は、会ったことがない人、行ったことがない地域、経験したことのない時間を生き生きと再現できるので、臨場感のある授業が展開できる。

1 徹底的にこ

産業学習に
役立つ動画を収録

充実の
インタビュー動画

5年

- 地球儀の使い方
緯度経度の測り方、
距離の測り方ほか
- 寒い土地のくらし
除雪車、雪を利用した
野菜の保存ほか
- 米作りの一年
田おこし～出荷準備ほか
- 水産関連施設
漁港のようす、栽培漁業ほか
- 自動車ができるまで
プレス工場～出荷
- 森林を育て、まもる人々
下草をかる、枝打ちをする、間ばつほか



平成27年度版

平成27年(2015年)4月発売

小学社会 指導者用 デジタル教科書



各巻(5年、6年) 校内フリーライセンス

■DVD-ROM 4年契約版

価格 各**64,800円**(本体60,000円+税8%)

■DVD-ROM 1年契約版

価格 各**18,360円**(本体17,000円+税8%)

◆学習者用デジタル教科書も同時発売

導入をご希望、ご検討の際は、お問い合わせください。

■動作環境

- ・Windows 7 Service Pack 1 ※1/Windows 8.1(デスクトップモードのみ) ※2
- ※1 Windows 7の場合、Internet Explorer 10以上、.NET Framework 4.5以上が必要です。
- ※2 Windows RTでは動作しません。
- ・CoNETSビューア 1GB以上+各学年データ(5年3.5GB、6年3GB)のHDD空き容量(予定)
- ・1024×768以上のディスプレイ解像度

特集記事を本誌に掲載!!

CHECK!

デジタル教科書の利点や、コンテンツの特長についてご案内しています。詳しくは、p22~23をご覧ください!



CoNETS 版
デジタル教科書

CoNETS各社共通のデザインと操作性。
どの教科でも操作に迷うことなく、
円滑な授業が行えます。

CoNETSビューアの主な特長と機能

- オリジナル教材作成エディター ●画像取り込みと外部リンク
- 範囲指定など充実した拡大 ●ふせんによる書き込み、マスク
- 2つの画面を並べて表示 ●アカウントごとの学習記録保存、呼出し
- タブによる画面展開 ●作業状態をそのまま保存できるスナップショット など

■体験版(DVD-ROM)については、下記弊社Webサイトよりお問い合わせください。

デジタル教科書の最新情報はWebサイトで!

日文

検索

※この商品は現在開発中です。本記載内容および仕様は予告なく変更する場合があります。

ご注文は、弊社代理店にて承ります。

お問い合わせ 弊社Webサイト「ご要望・お問い合わせ」よりお願い致します。

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

ご購入について 大阪本社業務部までお願い致します。

TEL:06-6695-1771 FAX:06-6606-5171

社会科 *navi* Vol. 9

日文教育資料[小・中学校社会]

平成27年(2015年)1月30日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33262

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16

TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14

TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F・B

TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1

TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690